

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	こどもプラス豊見城教室3号館		
○保護者評価実施期間	令和8年2月1日		～ 令和8年2月28日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	54	(回答者数) 54
○従業者評価実施期間	令和8年2月1日		～ 令和8年2月28日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	13	(回答者数) 13
○事業者向け自己評価表作成日	令和 8年 3月 30日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	専門性の高い支援を提供していること。	理学療法士・作業療法士・保育士などの専門職が在籍し、支援の質を高めるために定期的にミーティングを行っている。個別対応が必要な児童には、マンツーマンや少人数での支援時間を設けている。また、運動遊びは振り返りを行い、その日の児童の様子に合わせて内容を調整している。	毎月の研修に加え、学術大会への参加やペアレントトレーニング、ABAなど、専門性を高めるための個人研修への参加を推奨し、参加しやすい環境づくりに努めている。また、児童や保護者の要望に応じて、学習面・運動面・コミュニケーション面などの課題に対して、専門職による個別支援の機会を増やしていく。
2	丁寧なコミュニケーションに努めていること。	児童の活動の様子については、利用時に公式LINEで写真を添えて速やかに情報提供を行っている。必要に応じて、対面や電話での報告も実施し、丁寧な情報共有に努めている。また、行事予定は事前に周知し、参加希望の確認や当日の様子の共有を行うことで、保護者が安心して参加できるよう配慮している。	保護者の意見や要望を積極的に聴取できるよう、日常的な声かけを強化するとともに、必要に応じて面談日を柔軟に設定できる体制を整備し、周知を図っていく。
3	清潔で安全に配慮された環境づくりに努めていること。	感染症の流行時期に限らず、日常的に清掃および消毒を徹底し、感染症対策の強化に努めている。また、児童の怪我予防のため、教室内の床や壁、ドア枠へのクッション材の設置を行うとともに、活動内容やテーブル配置などを工夫し、安全な環境設備に取り組んでいる。	感染症対策に関する研修受講に加え、発生時を想定した模擬訓練や情報共有を行い、事業所内での勉強会の実施頻度を高めていく。また、定期的に事業所内の環境を全体で点検する機会を設け、必要な部品の整備や環境調整を行い、安全管理体制の強化を図っていく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	事業所イベントでの保護者様やきょうだい同士の交流の機会が少ないこと。	運動会などのイベントは実施しているが、開催頻度や内容については十分とは言えないと感じている。また、保護者様の仕事や私用により参加が難しい場合もあり、開催方法への配慮が必要であると認識している。今後は、楽しく交流できるイベント企画の経験を重ね、円滑に運営できる体制作りを進めていく必要がある。	保護者同士が交流できる機会を充実させるため、交流会の開催回数を増やし、気軽に参加できる集まりやテーマ別の座談会などを企画していきたい。また、季節行事等においてはきょうだいの参加も歓迎し、ご家族で楽しんでいただける機会を広げられるよう配慮する。さらに、ペアレントトレーニングをはじめとする家族支援プログラムについても、積極的にご案内し、参加を促進する。
2	取り組みに関する周知が不十分であること。	公式LINEやブログ、冊子等を通して情報提供を行っているが、一部の保護者へ十分に周知できていない可能性があることと認識している。個別支援計画作成時や契約時にも説明を行っているものの、周知の頻度やタイミングについては改善の余地があると考えている。また、電話や公式LINEなど、保護者様ごとの連絡手段に応じた情報提供が十分とは言えない状況である。	保護者様のニーズに応じて、公式LINEに加え他のSNSの活用も検討し、情報を適切なタイミングで幅広く発信できる体制の整備を図る。また、マニュアルや安全対策計画等の周知機会が少ない内容については、教室掲示の工夫や参観日を実施を通して、事業所の取り組みがより伝わるよう改善を進めていく。
3	個別対応が必要な児童がいることから、利用人数によっては職員配置が十分でない場面がある。	利用人数に応じて職員の週休日を調整し、適切な配置となるように対応しているが、職員の急な休みや曜日ごとの利用状況、児童の特性によっては、配置が難しい場合がある。	役割分担の明確化や環境構造の工夫を行い、支援体制の効率化を図っていく。また、朝礼で当日の支援内容や重点対応児童を共有し、必要な場面に適切な配置ができるよう体制強化を行う。